# 住宅用火災警報器の維持管理について

**住宅用火災警報器にホコリが付くと火災を感知しにくくなります。**
**乾いた布や掃除機等でホコリを取り、定期的に点検しましょう。**

## 【点検の方法について】

ボタンを押したり、ひもが付いているタイプのものは、ひもを引いて行えます。
詳しくは製品の取扱説明書をご覧下さい。
また、次の場合には作動確認を行いましょう。

（1）初めて設置したとき
（2）汚れなどの清掃をしたとき
（3）設置場所を変更したとき
（4）故障や電池切れが疑われるとき
（5）長期留守にしたとき
（6）電池の交換をしたとき

## 【住宅用火災警報器が鳴った場合】

住宅用火災警報器が鳴ったのに煙や炎が確認できない場合は電池切れや故障かもしれません。作動表示灯の点滅や警報音の違いによって判別できますので取扱説明書で確認しましょう。

また、一般社団法人日本火災報知機工業会のホームページには取扱説明書がない場合でも適切に維持管理ができるように、メーカー別の機種ごとに警報が鳴った時の正しい対処方法などについて掲載されていますので参考にしてください。

一般社団法人日本火災報知機工業会のホームページ
URL:http://www.kaho.or.jp/text/user/awm09_p01.html